

長谷川等伯の世界をジャズ組曲に

ピアニスト・作曲家 守屋純子

ジャズピアニストで作曲家の守屋純子が自身のオーケストラで新アルバム「アート・イン・モーション」を出した。目玉は安土・桃山時代に活躍した絵師・長谷川等伯をテーマにしたジャズ組曲。海外でも活動する音楽家としての思いが込められている。

守屋は長年、石川県七尾市で子どもたちのビッグバ



ンドの指導を続けている。

「音楽家がお世話になった場所にお返しするのは曲を作るのが一番」。過去にも青森県六ヶ所村、東京・浅草にちなんだ曲を書いていた。七尾には、没後400年で注目された等伯を題材に曲を作ろうと考えた。

国宝「松林図屏風」（楓）

「長谷川等伯ジャズ組曲」を作った。時に静謐せいひつ、時に絢爛けんらん、と表情豊かな等伯の世界を音に移した。

等伯について調べていると、明治時代に等伯が評価されるきっかけとなった論文を自分の曾祖父が書いて

いたことがわかった。等伯が一層身近になった。

「苦難の連続だった人生が絵に表れている。激動の時代に地方の絵師が成り上がっていく様子は大河ドラマになってもいいぐらい」

前作でも愛知県岡崎市が委嘱した「徳川家康公ジャズ組曲」を収録するなど、土地の文化をテーマにした曲を作ってきた。海外での活動も多い守屋は言う。

「海外に発信するには、米国生まれのジャズそのままでなく、自分たちらしい文化や歴史を表現することが大事だと思うんです」